

## シリアルナンバーとライセンスキーについて

## - シリアルナンバーとライセンスキーの違いはなんですか？

シリアルナンバーは製品を購入すると発行される、アルファベットと英数字から構成されている「M12534567890」のような文字列です。これはライセンス証書に記載されています。

シリアルナンバーは、ライセンスポータルや FileConnect を利用する場合に必要なになります。

ライセンスキーは、製品を有効化するために必要な「00-0000-0000-000000」のような数字文字列でライブアクティベーションキーとも言います。Backup Exec 12.5 のライセンスキーは、ライセンス証書に記載されています。各種エージェントやオプションに Windows システムエージェントなどが付属している場合には、複数のライセンスキーが提供される場合もあります。

## ボックス製品について

## - ボックス製品を購入した後からサポートを別途購入できますか？

ボックス製品購入後ではサポートを購入することができません。ボックス製品でサポートが必要な場合は、サポートが付属したサポートバンドル製品をご用意しておりますので、そちらをご購入ください。

## - ボックス製品にサポートがバンドルされている製品がありますが、1 年後の更新はどのようにしたらよいのでしょうか？

1 年後のサポート更新は、エクスプレスプログラムまたはリワードによるサポートサービスライセンスの購入にて更新が可能です。

## - ボックス製品の Backup Exec 11d を持っていますが、Backup Exec 12.5 のボックス製品に移行することはできますか？

ボックス製品のバージョンアップグレードは用意されていないため、エクスプレスプログラムまたはリワードの Backup Exec 12.5 アップグレードライセンスを購入することによって Backup Exec 12.5 のライセンスへアップグレードすることが可能です。

## - メンテナンス付属ではないボックス製品を持っているのですが、もし、最新のビルドが必要になった場合の入手方法を教えてください。

Backup Exec 12.5 において、製品がアップデートされ最新ビルドが必要になった場合には、FileConnect (<http://fileconnect.symantec.com/>) から入手することができます。メンテナンスが付属していないボックス製品の場合、シリアルナンバーが提供されていないので、カスタマケアにご連絡いただければ FileConnect へアクセスするための一時利用シリアルナンバーをご提供します。

その上で、最新ビルドをダウンロードしてください。

## 以前のバージョンの Backup Exec との混在環境について

### – メディアサーバーが Backup Exec 12 の環境で Backup Exec 12.5 のエージェントは利用できますか？

Backup Exec 12.5 のエージェントを Backup Exec 11d など、以前のバージョンのメディアサーバーにて利用することはできません。Backup Exec 12.5 のエージェントを利用したい場合にはメディアサーバーもアップグレードする必要があります。

### – 古いバージョンの Backup Exec 環境にエージェントを追加導入したいが、古い Backup Exec のライセンスを購入できませんか？

旧バージョンの Backup Exec のライセンス販売は、オプション、エージェント類も含め、Backup Exec 12.5 のリリースに伴い終了しております。そのため、旧バージョンの Backup Exec のエージェントを追加購入することはできません。しかし、全てのシステムを Backup Exec 12.5 へアップグレードすることを前提とした場合で、すでに旧バージョンの Backup Exec をご使用中のお客様に限り、一時的な措置として、Backup Exec 12.5 のエージェントやオプションの購入を行って、旧バージョンのエージェントやオプションを利用することが可能です。

また、Backup Exec 12 をご利用中の場合には、Backup Exec 12.5 ライセンスキーをそのまま利用することができます。Backup Exec 12 以外の旧バージョンのライセンスキーは、弊社カスタマケアにご連絡の上、入手する必要があります。

ただし、以下の制限事項がありますので、ご注意ください。

- Backup Exec 11dの環境で運用中のお客様がライセンスを追加したい場合に限りです（新規にBackup Execの環境を構築される方には適用されません。Backup Exec 12.5で構築してください）  
※Backup Exec 10.0、10dはスタンダードサポート終了となったため、これらのバージョンで追加することはできません。
- 最終的にBackup Exec 12.5にアップグレードいただくことを前提とします。
- 今回の Backup Exec 12.5 にて新規で追加されたエージェントをダウングレードして、旧バージョンにて利用することはできません。
- ダウングレード利用するバージョンの Backup Exec で存在していないオプションやエージェント（国内販売されていなかった 10.0、10d の RALUS も含む）はご利用いただけません。
- ボックス製品に関しては、販売店様の在庫がなくなりしだい販売終了となります。ボックス製品の販売終了後も同様に、旧製品に相当するBackup Exec 12.5のボックス製品をご購入いただくことで利用いただくことが可能になります。（注意事項、前提条件共にライセンス製品の場合に準じます）
- 加えて前提条件として、「シマンテックがサポートを提供している期間が終了していないこと」、「カスタマケアでライセンスキーを取り扱うことが可能なこと」が条件となります。
- Backup Exec 10dのContinuous Protection エージェント(CPA)/Continuous Protection Server(CPS)についてもこの措置の対象外です。CPA/CPSのライセンス追加したい場合は、全てのライセンスをアップグレードしていただく必要があります。
- Backup Exec 12からは、IDRおよびAOFOが本体およびWindowsシステムエージェントに同梱されたため、個別のエージェント、オプションの販売がありません。IDRおよびAOFOを追加で購入したい場合にはWindowsシステムエージェントをご利用ください。  
この場合、カスタマケアに連絡し、古いバージョンに利用するライセンスキーを入手する場合に“AOFO”あ

るいは“IDR”を利用したい旨をご連絡ください。

- Backup Exec 12.xでは、DPMエージェントの後継製品はありません。

エージェント/オプション	購入すべきライセンス	ライセンスキー
<p>既存の Backup Exec 11d 環境に追加のエージェントやオプションを導入したい場合。</p> <p>例：顧客はすでに1つの Backup Exec 11d Exchange エージェントを持っており、さらに追加で2台目の Exchange エージェントをインストールしたい。</p>	<p>Backup Exec 12.5 の対応するエージェントやオプションを購入</p> <p>例：Backup Exec 12.5 Exchange エージェントを追加購入</p>	<p>既存の 11d ライセンスキーを再使用</p> <p>例：既存の Backup Exec 11d Exchange エージェントのライセンスキーを使用</p> <p>*顧客はインストールメディアとして利用中の 11d CD を使用する必要があります。</p>
<p>新規でエージェントやオプションを Backup Exec 11d の環境に追加したい場合。</p> <p>例：顧客は、Backup Exec 11d を利用中であるが、今までに Exchange エージェントを購入したことがないが、今回新しく Exchange エージェントを導入したい。</p>	<p>Backup Exec 12.5 の対応するエージェントやオプションを購入</p> <p>例：Backup Exec 12.5 Exchange エージェントを追加購入</p>	<p>カスタマケアに連絡の上、古いバージョンのライセンスキーを入手する必要があります。</p> <p>例：Backup Exec 11d Exchange エージェントのライセンスキーをカスタマケアから入手</p> <p>*顧客はインストールメディアとして利用中の 11d CD を使用する必要があります。</p>

・お客様は、既存の Backup Exec 12.5 より前の環境にエージェントやオプションを追加することができます。

また、前のバージョンを一次利用する場合の前提条件として、「シマンテックがスタンダードサポートを提供してこと」、「カスタマケアでライセンスキーを取り扱うことが可能なこと」が条件となります。

・カスタマケアで古いバージョンでキーが発行できるのは 11d となります。(2009 年 12 月現在)

※Backup Exec 12.5 のライセンスキーは Backup Exec 12 で使用することが可能です。したがって、Backup Exec 12 を利用しているときにはカスタマケアからライセンスキーを入手する必要はありません。

#### AOFO/ IDR オプションのバージョンアップグレードについて

Backup Exec 12 より、本体および Windows システムエージェントに標準機能として提供されているため、基本的にバージョンアップグレード及び保守更新を行う必要はありません。また、Backup Exec 11d 以前のバージョンをご利用中のお客様が、Backup Exec 12.x の保守更新をされる場合、IDR、AOFO の保守契約は Backup Exec 12.x では存在しないため、保守更新も不要になります。よって、Backup Exec 本体及び Windows システムエージェントにおいて、Backup Exec 12.x の保守契約を更新していれば、IDR、AOFO についても引き続き有償サポートが受けられます。

## **Backup Exec 11d 以前のバージョンの AOFO/ IDR オプションライセンスが必要な場合**

Backup Exec 11d をご利用中のお客様が、追加で AOFO、IDR ライセンスが必要な場合は、Windows システムエージェントに必要なライセンス数ご購入頂き、Windows システムエージェントから AOFO、IDR にライセンスをダウングレードすることで対応可能です。また、Backup Exec 12.x を保守付きでご購入のお客様が、Backup Exec 11d にダウングレードされる場合、Backup Exec 12.x の本体及び Windows システムエージェントの保守があれば、ダウングレードで AOFO、IDR ライセンスを入手した場合でも AOFO、IDR についての有償サポートを受けることが可能です。

- Backup Exec 12.5 の環境で Backup Exec 12 のエージェントは利用できるのでしょうか？  
可能ですが、Backup Exec 12.5 の新機能は利用できません。できるだけ早くすべてのエージェントを Backup Exec 12.5 の環境にアップグレードすることをお勧めします。

## ライセンスアップグレードについて

- Backup Exec 12.5 にアップグレードするには、費用がかかりますか？  
Backup Exec の保守契約を結んでおり、有効な保守契約期間内のお客様は、Backup Exec 12.5 for Windows Servers を無償でご利用可能です。  
Backup Exec をご利用中で、保守契約を結んでいないお客様はアップグレードライセンスをご購入いただく必要があります。
- アップグレードライセンスとは何ですか？  
Backup Exec 12.5 から、バージョンアップグレードライセンス、コンペティティブアップグレードライセンス（競合他社からのアップグレード）、クロスグレードライセンス（例えば、BE for Windows Small Business Server から BE for Windows Servers へのアップグレード）が、「アップグレードライセンス」1 つに統合されました。アップグレードライセンスを利用することにより、通常ライセンスの定価から 35%オフでご購入頂けます。
- どのバージョンからアップグレード可能でしょうか？  
Backup Exec 8.x 以降の旧バージョンからアップグレードライセンスが利用可能です。
- Backup Exec System Recovery からアップグレードできますか？  
Backup Exec System Recovery からのアップグレードはできません。
- 競合製品アップグレードの購入対象となる競合製品は何でしょうか？  
競合他社製品とは、Backup Exec ソフトウェアと同等の機能、またはその一部の機能を提供する市販製品を指します。  
例) BakBone Software 社 NetVault 製品  
CA 社 BrightStor (ARCserve) 製品  
EMC 社 NetWorker 製品 など  
オペレーティングシステムにあらかじめ無償で含まれるバックアップ機能やフリーソフトウェアなどは除きます。上記以外の製品からのアップグレードを希望する場合には弊社までお問い合わせください。

- 競合他社製品からのアップグレードの場合、ライセンスの考え方が異なる場合や、存在しない場合にはどちらに合わせるのでしょうか？

他社製品からのアップグレードライセンスとして設定されていないエージェント、オプションをお使いいただくには、通常のライセンスをご購入いただく必要があります。競合他社製品とのライセンス体系の違いで購入するライセンス数が異なる場合、Backup Exec のライセンス体系に従い、必要な数のアップグレードライセンスを購入いただく必要があります。

- 10d より古いバージョンの Windows リモートエージェント(CAL)をアップグレードすると、SYMC BACKUP EXEC AGENT REMOTE FOR NETWARE SERVERS 12.5 というライセンスも同時発行されますが、これは何ですか？

日本以外の国では、以前の Remote Agent for Windows Servers(CAL)は NetWare 版のリモートエージェントも同梱されておりました。そのため、アップグレードした場合には同時にこのライセンスも提供される仕組みになっております。しかし、このエージェントは日本国内ではサポート及びリリースがされておられません。利用しないようお願いします。

- 旧バージョンからのアップグレードインストール方法について教えてください。

バージョン 11d 以降からは直接アップグレードすることによって以前の設定を引き継ぐことが可能です。それ以前のバージョンは、Backup Exec 12.5 へ直接アップグレードすることができません。

- Backup Exec 11d を利用しています。Backup Exec 12.5 の Data Protection Manager エージェントへのアップグレードパスについて教えてください。

Backup Exec 12 以降では、DPM エージェントは販売終了となり、更新元と同等の機能の提供が無いために Backup Exec 12.5 でのアップグレードパスはございません。

#### メンテナンス/サポートサービスの購入について

- 基本ライセンスとオプションやエージェントの購入時にベーシックメンテナンス/エッセンシャルサポートなどのように別々のメンテナンス形態といった購入は可能ですか？

一つのシステムに対して一つのサポート形態のみとなります。したがって、すべてエッセンシャルサポート、あるいはベーシックメンテナンスを購入する必要があります。

全てのメンテナンス/サポートサービスは、Backup Exec 基本ライセンスにてメンテナンス/サポートサービスを保持していることが前提となります。オプションやエージェントのみでメンテナンス/サポートサービスを保持していたとしても、基本ライセンスのメンテナンス/サポートサービスを保持していない場合は、あらゆる有償サポートサービスを受けることはできません。

また、オプションやエージェント側のみはメンテナンス/サポートサービスを保持していないなど、同一システム内でメンテナンス/サポートサービスの購入レベルが異なる場合、お問い合わせ内容によっては有償サポートサービスをご提供できない場合がありますので、メンテナンス/サポートサービスを購入する場合には、基本ライセンス用だけでなくその他のオプションやエージェント用のメンテナンス/サポートサービスも一緒に購入することを推奨します。

※ボックス製品の場合にはメンテナンス/サポートサービスを別個に購入することができませんので、特にご注意ください。

- たとえば、まずエッセンシャルサポートを今年買ったとしたら、来年の更新時には必ずエッセンシャルサポートを購入しなければならないのでしょうか？ベーシックメンテナンスに変更できないのでしょうか？1年後の更新時にエッセンシャルサポートまたはベーシックメンテナンスの選択をしていただくことができます。

#### Backup Exec 12.5 for Windows Servers/Windows Small Business Server について

- Backup Exec 12.5 for Windows Servers を、Microsoft Windows Small Business Server にインストールして利用することはできますか？

可能です。

- Backup Exec 12.5 for Windows Small Business Server を Microsoft Windows Server にインストールして利用することはできますか？

できません。Backup Exec 12.5 for Windows Small Business Server は Microsoft Windows Small Business Server 専用で、通常の Windows Server にインストールして使用することはできません。

- Backup Exec 12.5 for Windows Servers のオプションは Backup Exec 12.5 for Windows Small Business Server のメディアサーバーにて利用することはできますか？

Backup Exec 12.5 for Windows Small Business Server は、CASOとSSOを除いてすべての Backup Exec 12.5 for Windows Servers のエージェントとオプションを利用することが可能です。

- Backup Exec 12.5 for Windows Small Business Server Standard Edition と Premium Edition の違いは何ですか？

それぞれのメディアサーバーに違いはありませんが、利用できる機能に違いがあります。

Standard Edition の場合、以下の機能が提供されています。

- Exchange Server エージェント
- Intelligent Disaster Recovery オプション
- Desktop and Laptop オプション
- Advanced Open File オプション

対して Premium Edition は以下の機能が提供されています。

- Exchange Server エージェント
- SQL Server エージェント
- Intelligent Disaster Recovery オプション
- Desktop and Laptop オプション
- Advanced Open File オプション

- Backup Exec 12.5 for Windows Small Business Server Premium Edition は Microsoft Windows Small Business Server Standard Edition にはインストールできますか？

Backup Exec 12.5 for Windows Small Business Server Premium Edition/ Standard Edition は、Microsoft Windows Small Business Server のいずれの Edition (Standard および Premium) にインストールすることが可能です。

ただし、Windows Small Business Server 2008 Premium Edition に Backup Exec 12.5 for Windows Small Business Server をインストールする場合は、Backup Exec 12.5 for Windows



Small Business Server Premium Edition をお選びください。Windows Small Business Server 2008 Premium Edition は 2 台のハードウェア構成が必要なため、Backup Exec 12.5 for Windows Small Business Server Premium Edition にはあらかじめ、Windows システムエージェントが含まれています。

## Continuous Protection Server (CPS)について

### - Continuous Protection Server (CPS)にはどのライセンスキーを使用したらよいですか？

Continuous Protection Server (CPS)には、Windows システムエージェントのライセンスキーを入力してください。CPS を使用する環境においては、構成上、バックアップ対象サーバー(ファイルサーバー)に対して必ず Windows システムエージェントを購入する必要がありますので、バックアップ対象サーバー(ファイルサーバー)用に購入した Windows システムエージェントと同じライセンスキーを入力していただければ結構です。

### - Continuous Protection エージェント(CPA)のライセンスキーは何処にありますか？

Continuous Protection エージェントのキーは Windows システムエージェントのライセンスキーと統合されています。したがって、Windows システムエージェントのライセンス証書にはライセンスキーがひとつのみ記載されています。

CPS のインストール時には Windows システムエージェントのライセンスキーをご利用ください。

## 各種エージェントおよびオプションについて

### - Windows システムエージェントはどのような場合に必要ですか？

Windows システムエージェントは従来の Windows リモートエージェントと Continuous Protection エージェント(CPA)、Advanced Open File オプション(AOFO)、Intelligent Disaster Recovery (IDR)の機能が利用できるエージェントです。

従来の Windows リモートエージェントと同様に、Backup Exec メディアサーバーにネットワークで接続された、リモートバックアップ対象サーバーごとに必要です。

また、データベースの継続的保護を実施する場合に、バックアップ対象サーバーごとに必要となります。

Windows システムエージェントは対象の Windows サーバー毎に必要です。

### - オプションやエージェントには Windows システムエージェントが付属していますが、メディアサーバー上でこれらのエージェント/オプションを使い、ローカルバックアップを行う場合、付属の Windows システムエージェントを別のサーバーの保護に利用できますか？

いいえ。Backup Exec 12.5 では、オプションや各種エージェントに付属している Windows システムエージェントや Linux/UNIX Server リモートエージェントなどを、そのエージェントやオプションから分離して他の Windows サーバーなどに利用することができません。他の Windows サーバーに対するリモートバックアップを行いたい場合には、Windows システムエージェントを別途購入してください。

### - リモート Windows サーバーの合成バックアップを行う場合、どのようなライセンスが必要ですか？

合成バックアップを行うには、Advanced Disk-based Backup オプションがメディアサーバーに 1 ライセンス必要です。バックアップ対象のリモートサーバーには Windows システムエージェントが必要です。

- オフホストバックアップを行う場合には、どのようなライセンスが必要ですか？

オフホストバックアップを行うには、Advanced Disk-based Backup オプションがメディアサーバーに 1 ライセンスが必要です。

バックアップ対象のリモートサーバーには Windows システムエージェントが必要です。

(Exchange Server や SQL Server のオフホストバックアップを実施するには Windows システムエージェントの代わりに Exchange Server エージェント、または SQL Server エージェントが必要になります。)

※ハードウェアまたはソフトウェアのスナップショットプロバイダが別途必要になります。

- Central Admin Server オプション(CASO)は全てのメディアサーバーに必要ですか？

いいえ。Central Admin Server オプション(CASO)は中央管理サーバー1 台だけに必要で、管理対象となるメディアサーバーには不要です。

- Central Admin Server オプション(CASO)の管理対象メディアサーバーで、Exchange Server エージェントを使ったバックアップを実施します。Central Admin Server オプション(CASO)でジョブを定義するのに Exchange Server エージェントが必要ですが、中央管理サーバーにもライセンスが必要ですか？

いいえ。中央管理サーバーには、管理対象サーバーで利用する全てのオプションをインストールする必要がありますがライセンスは管理対象のメディアサーバーのライセンスを再利用することになります。ただし、中央管理サーバーにあたるメディアサーバーでエージェントを使用したバックアップジョブを実行する場合には、ライセンスが必要です。なお、Exchange Server エージェント以外のその他オプション、エージェント類も同様です。

- Desktop and Laptop オプション(DLO)のライセンス形式について教えてください。

Desktop and Laptop オプションのライセンスは、保護対象となるデスクトップ PC あるいはノート PC のユーザー数分必要となります。

ただし、Desktop and Laptop オプションは 1 ライセンスで 10 ユーザー分のライセンスとなりますので、保護対象コンピュータ 10 ユーザーにつき 1 ライセンスが必要となります。

また、Backup Exec 12.5 for Windows Servers の基本ライセンスに Desktop and Laptop オプション 5 ユーザーライセンスが含まれています。

- デスクトップ PC やノート PC のバックアップデータを複数のサーバーに保存する場合には特別なライセンスが必要ですか？

いいえ。Desktop and Laptop オプションのライセンスは保護対象のコンピュータのユーザー数で決まります。バックアップデータの保存先には依存しません。

- Microsoft Exchange Server エージェントのライセンス形式について教えてください。

Microsoft Exchange Server エージェントは、保護対象の Microsoft Exchange Server ごとに必要です。

Microsoft Exchange Server エージェントには Windows システムエージェントが含まれているのでメディアサーバーと同一サーバーにインストールされた Exchange Server でも、リモートサーバー上の Exchange Server でも保護可能です。

また、Exchange Server の継続的なデータ保護のためには、Continuous Protection Server を構築する必要があります。

- **Microsoft SQL Server エージェントのライセンス形式について教えてください。**

Microsoft SQL Server エージェントは保護対象の Microsoft SQL Server ごとに必要です。Microsoft SQL Server エージェントには Windows システムエージェントが含まれているので、メディアサーバーと同一サーバーにインストールされた SQL Server でも、リモートサーバー上の SQL Server でも保護可能です。
- **Microsoft SharePoint Server エージェントのライセンス形式について教えてください。**

Microsoft SharePoint Server エージェントは、SharePoint Server 環境全体をサポートします。サーバーファーム(分散構成)をとった場合にも、Microsoft SharePoint Server エージェントは 1 ライセンスのみ必要です。Microsoft SharePoint Server エージェントには Windows システムエージェントが含まれていません。
- **Microsoft SharePoint Server のサーバーファームにサーバーを加えた場合に必要なライセンスは何ですか？**

SharePoint サーバー環境の場合、通常 1 台の SQL サーバーが必要になりますが、SharePoint Server エージェントのライセンスには、最低限必要なエージェントのライセンスが含まれています。  
サーバーファームへファイルサーバーなどを追加した場合には、サーバー毎に Windows システムエージェントを追加してください。ただし、このサーバーファームにさらに追加の SQL サーバーを加えた場合には SQL エージェントが別途必要になります。
- **Linux/UNIX Server リモートエージェントのライセンス形式について教えてください。**

Linux/UNIX Server リモートエージェントは、それぞれ Linux および UNIX の保護対象のリモートサーバー1 台に対して 1 ライセンス必要です。
- **Oracle エージェントのライセンス形式について教えてください。**

Oracle サーバー1 台ごとに 1 ライセンスが必要です。  
Oracle エージェントには Windows システムエージェントと Linux/UNIX Server リモートエージェントが付属していますが、Oracle エージェントをインストールする環境に応じてどちらかの排他利用となります。
- **Oracle RAC エージェントのライセンス形式について教えてください。**

Oracle RAC エージェントは Oracle Real Application Cluster の各ノードに対して、ノード数分のライセンスが必要です。  
例えば、3 ノード構成の Oracle RAC 構成の場合、Oracle RAC エージェントは 3 ライセンスが必要です。
- **IBM DB2 エージェントのライセンス形式について教えてください。**

IBM DB2 サーバー1 台に対して、台数分のライセンスが必要です。
- **Microsoft Active Directory エージェントのライセンス形式について教えてください。**

Microsoft Active Directory エージェントは保護対象となるドメインコントローラサーバー単位でのライセンス数が必要です。  
Active Directory エージェントは、Active Directory で標準的に用意されている復元モードを使用せずに、Active Directory のオブジェクト単位、オブジェクトのプロパティ単位などのきめ細かいリカバリを再起動することなく行えるエージェントです。ドメインコントローラ全体のバックアップ リカバリのみに必要な場合には必ずしも必要ではありません。
- **Mac リモートエージェントのライセンス形式について教えてください。**

Mac リモートエージェントは、保護対象となる Mac システムの台数分のライセンスが必要です。

- Lotus Domino エージェントのライセンス形式について教えてください。  
Lotus Domino エージェントは、保護対象となる Domino サーバー単位でのライセンスが必要です。
- Enterprise Vault エージェントのライセンス形式について教えてください。  
Enterprise Vault エージェントは、Enterprise Vault のシステムに必要なサーバー台数分のライセンスが必要です。たとえば、Vault Store、Index、Partitionなどをひとつのサーバーにおいて、別途 Enterprise Vault に使用する SQL サーバーがある場合には、この SQL サーバーにも EV エージェントが必要になります。この構成の場合、EV エージェントは 2 つ必要になります。
- NDMP オプションのライセンス形式について教えてください。  
NDMP オプションは NetApp Filer (および、動作確認済み NDMP プロトコル互換デバイス) に接続したテープデバイスへのバックアップおよびリストアを行うことが可能なオプションです。  
NDMP オプションは、Filer からのテープデバイスへの直接接続、Filer から Filer へのバックアップに対応しています。NDMP オプションは NetApp Filer (または動作確認済み互換デバイス) 単位でライセンスが必要です。
- Library Expansion オプションのライセンス形式について教えてください。  
Backup Exec では標準でシングルドライブを無制限に接続でき、1 台のテープドライブを搭載した 1 台のロボットライブラリ装置 (オートローダーやライブラリ等) が利用可能です。  
Library Expansion オプションは 2 台目以降のテープドライブを搭載するロボットライブラリ装置の各テープドライブ 1 台につき 1 ライセンスが必要です。
- 1 台のテープドライブを搭載した 2 台のオートローダーを使用します。Library Expansion オプションは必要ですか？  
はい。Library Expansion オプションが 1 ライセンス必要です。  
Backup Exec では標準で、無制限の数のシングルテープドライブと、1 台のテープドライブを搭載した 1 台のロボットライブラリ装置が利用可能です。これを超える場合、総ドライブ数マイナス 1 の Library Expansion オプションが必要になります。
- SAN Shared Storage オプションのライセンス形式について教えてください。  
SAN Shared Storage オプションは SAN 環境において複数の Backup Exec メディアサーバーがテープドライブを共有する場合に必要です。  
各 Backup Exec メディアサーバーごとに 1 ライセンス必要となります。
- SAN 環境でテープライブラリを利用しますが、メディアサーバーは 1 台でテープドライブの共有は行いません。この場合も SAN Shared Storage オプションが必要ですか？  
いいえ、この場合は必要ありません。
- SAN 環境において 2 台のメディアサーバーを使用して 10 台のドライブを内蔵したテープライブラリ装置 1 台を共有している場合、Library Expansion オプションは何ライセンス必要ですか？  
Library Expansion オプションは、テープドライブの数だけでライセンスが決まります。この場合、10 台のテープドライブがあり、そのうち最初の 1 台は標準でサポートされるため、合計 9 ライセンスが必要となります。また、SAN Shared Storage オプションがそれぞれのサーバーに 1 ライセンスずつ、合計 2 ライセンス必要となります。

- Backup Exec 12.5 for Windows Servers をアクティブ/パッシブ構成の 2 ノードクラスタで利用します。ライセンスはいくつ必要ですか？(※メディアサーバーがクラスタ化されている前提の構成)

Backup Exec 12.5 をクラスタ環境で利用するためには、アクティブノードにのみライセンスが必要です。したがって、2 ノードのアクティブ/パッシブ構成の場合には Backup Exec 12.5 のライセンスは 1 ライセンスだけ必要となります。

また、Backup Exec 自体がクラスタ化される場合、どのような構成であっても最低限 Windows システムエージェントが 1 ライセンスは必要となります。(構成により必要数は異なります)

- 上記の構成でそれぞれのノードのローカルディスクをバックアップする場合にはどのようなライセンスが必要ですか？

Windows システムエージェントがローカルディスクをバックアップするノード数の数必要になります。上記の例では Backup Exec 本体のライセンスに加えてローカルディスクをバックアップするために、Windows システムエージェントが 1 ライセンス必要です。

- クラスタ構成のファイルサーバーやアプリケーションサーバーを Backup Exec for Windows Servers でバックアップする場合、ライセンスはいくつ必要ですか？

Backup Exec でクラスタ環境のサーバーを保護するためには、アクティブなノード数だけのライセンスが必要です。たとえば、2 ノードのアクティブ/アクティブ構成のリモートサーバーを保護する場合には、Windows システムエージェントが 2 つ必要になります。Exchange Server や SQL Serverなどを保護するにはそれぞれ対応するエージェントがアクティブノード数必要となります。

- VMware Virtual Infrastructure エージェントのライセンス形式について教えてください。

VMware Virtual Infrastructure エージェントとは、VMWare ESX における VMWare Consolidated Backup (VCB) を活用したオフホストバックアップと、ホスト単位のバックアップからファイル単位でのリカバリを提供するエージェントです。VMWare ESX ホストサーバー単位でのライセンスが必要です。また、VCB プロキシサーバー用の Windows システムエージェントがあらかじめ含まれています。ホスト内のゲスト OS に対しては Windows システムエージェント、Linux/UNIX Server リモートエージェントを無制限で使用可能です。VMware Virtual Infrastructure エージェントに関しては、専用の FAQ を別途提供していますので、詳細はそちらをご参照ください。

- Microsoft Virtual Servers エージェントのライセンス形式について教えてください。

Microsoft Virtual Servers エージェントとは、Microsoft Virtual Server 及び Hyper-V 環境のバックアップを一元的に行うことができ、ホスト単位のバックアップからファイル単位でのリカバリを提供するエージェントです。Virtual Server / Hyper-V ホストサーバー単位でのライセンスが必要です。また、Windows システムエージェントが他のエージェント同様に含まれています。ホスト内のゲスト OS に対しては Windows システムエージェント、Linux/UNIX Server リモートエージェントを無制限で使用可能です。Microsoft Virtual Servers エージェントに関しては、専用の FAQ を別途提供していますので、詳細はそちらをご参照ください。

- Linux Servers リモートメディアエージェントのライセンス形式について教えてください。

Linux Servers リモートメディアエージェントとは、Linux サーバーに接続されたディスクまたはテープ(共有ストレージまたは共有テープライブラリ)に直接バックアップをすることができるエージェントです。リモートの Linux サーバー単位でライセンスが必要で、ローカルバックアップ用に Linux/ UNIX Server リモートエージェント(RALUS)のライセンスも含まれています。

Backup Exec のオプションであるため、Windows メディアサーバーと共に使用する必要があります。  
(スタンドアロンの Linux 環境では使用できません。)

- ブレードサーバー利用時のライセンスはどのように数えますか？

各ブレードサーバーは全て個別のサーバーとみなされるため、それぞれのブレード 1 台ごとにライセンスが必要となります。

### Backup Exec 製品のサポート終了時期について

- Backup Exec 製品のサポート期間について教えてください。

製品のサポートは以下の二つのフェーズに分かれます。

スタンダードサポート: 提供される期間は新バージョン(メジャーバージョン\*)の販売開始後から、該当バージョンの販売終了後 30 ヶ月間が経過するまでです。

提供されるサービスは、

- 新規での問題修正
- 新規の問題回避方法
- コンテンツの更新
- 上記を含むテクニカルサポート

です。

Hotfix/パッチなどの問題修正はシマンテックの判断により提供されます。

パーシャルサポート: スタンダードサポートの終了後から開始し、該当メジャーバージョンのリリース後から、7 年が経過するまでです。提供されるサービスは、

- 既存の問題回避方法(既知の回避方法や、既存の Hotfix/パッチの提供)

です。

スタンダードサポートおよびパーシャルサポートを含む、サポートに関するの詳細は以下の URL から参照可能です。

[http://www.symantec.com/region/jp/techsupp/enterprise/info/Enterprise\\_Tech\\_Support\\_Policy\\_R7.pdf](http://www.symantec.com/region/jp/techsupp/enterprise/info/Enterprise_Tech_Support_Policy_R7.pdf)

この新しいサポートポリシーは Backup Exec 10.0 以降の製品から適用となっております。10.0 より前のバージョンの製品は、以前のサポートサイクルが適用されます。(変更はありません)



各 Backup Exec のバージョン別サポート期間は以下の通りです。

Backup Exec 10.0

スタンダードサポート終了日: 2009/5/6 (この日付以降パーシャルサポートとなります)

全てのサポートの終了予定日: 2012/1/18

Backup Exec 10d

スタンダードサポート終了日: 2009/5/6 (この日付以降パーシャルサポートとなります)

全てのサポートの終了予定日: 2012/1/18

Backup Exec 11d

スタンダードサポート終了日: 2011/8/18 (この日付以降パーシャルサポートとなります)

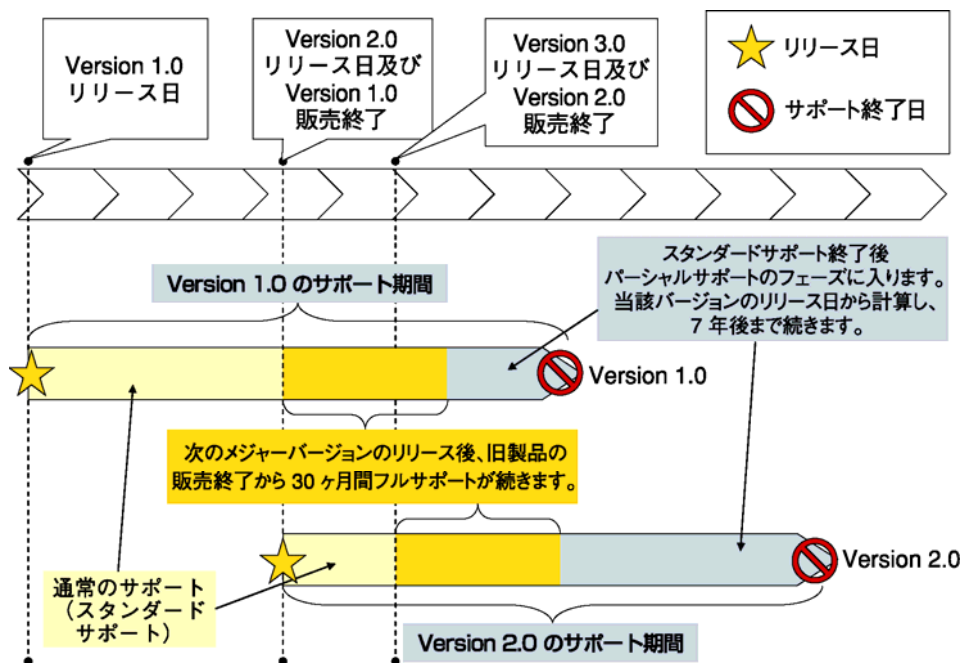
全てのサポートの終了予定日: 2013/11/6

Backup Exec 12

スタンダードサポート終了日: 次のメジャーバージョンリリース後、30ヶ月

全てのサポートの終了予定日: 2015/2/18

- \* メジャーバージョンとは、Version 1.x → Version 2.x などのようにバージョン番号の上位桁が変更になったものです。



※この図は、新しいバージョンリリースと旧バージョンの販売終了が同一の場合です。製品によって異なります。